

平成 28 年度 議会報告会の反省・総括について

総務委員会

1 飯田市自治基本条例で定められている「議会報告会」の目的に返って、現在行われている議会報告会あり方はどうか。

- ①当初は、「議会報告の場」として開催してきたが、「市民の意見を聞いて欲しい。」との要望を受けて、「意見を聞く場」に内容をシフトしてきた。「議会報告会」という名称であるので、市民には「議会の報告を聞く会」と受け止められている。内容については、更に「広聴」に重点を置き、懇談や意見交換の比重を増やすべき。

2 議会報告会の方法について

市内 20 か所で開催する提案と合わせて「地元で希望するテーマで意見交換したい」という意見がまちづくり委員会から出されている。今までの方法とは大きく変わるがどうか。

- ①6ブロックではなく、20 地区で開催して欲しいという意見等もあるが、特定の地域や地区別のテーマでの開催要望があった場合には、個別に対応することとし、基本は6ブロックでの開催が良い。
- ②6ブロックで開催し、分科会を地区単位で行う方法もあるし、20 地区で開催し、担当議員が手分けして参加する方法も有る。開催方法を検討する必要がある。
- ③「地元で希望するテーマで意見交換したい」との要望は、重視すべき。委員会として「研究テーマに基づいて意見が聞きたい」との意向もあるが、対応方法を検討すべき。
- ④6ブロックで開催し、分科会のテーマを 20 地区の要望によって設定し、参加者は希望する分科会に参加する方法ではどうか。

3 主催について

今年はまちづくり委員会との共催を続けたが今後のあり方はどうか。

- ①「地元で希望するテーマで意見交換したい」との要望を反映するなら、テーマの取りまとめを、まちづくり委員会にお願いするしかなく、共催は必要。
- ②まちづくり委員会との共催に対する意見の根底には、「参加動員」があると思われる。地域の課題を協議する場において、「地域の役員」の存在は欠かせないため、共催は継続すべき。その上で動員や負担の軽減策を考えるべき。
- ③「報告会」という名称が、共催への抵抗感につながっている可能性が有るので、まちづくり委員会に十分な説明を行う必要がある。

4 参加の呼びかけについて

今年は女性や若い年齢層の参加の少なさをカバーするため、各種団体、女子短大、各高校へ参加の呼びかけを行った。また、テーマにちなんだ団体へも呼びかけたがどうだったか。

- ①効果を量ることは難しいが、呼びかけ自体は良かった。継続したい。

5 会場について 新たに千代公民館、飯田市役所で行ったがどうであったか

(1) 千代公民館について

- ①多少狭かったが、問題は無かった。
- ②準備をまちづくりの役員の方が行ってくれたことは、申し訳なかった。

(2) 飯田市役所について

- ①千代も市役所も新しい施設を見て頂けたことは良かった。
- ②会場の上下移動には不満の声があった。

6 現在の報告会の形式について

(1) 全体会～分科会～全体会という流れはどうか

- ①まとめの全体会における分科会の報告は、時間を制限して委員長が行った方が良い。

(2) 全体会、分科会の時間配分について

- ①「議会報告会を起点とした取組」の説明は、全体会の時間の中では困難。説明内容を整理した方が良い。むしろ、まとめの全体会の時間を増やした方が良い。

7 全体会について

(1) 全体会の説明について

今年からパワーポイントを使用したはどうだった

- ①パワーポイントの使用により、説明内容の理解がしやすかったのではないかな。

(2) 全体会の資料について

- ①分かりやすく作成した資料だが、一般の方には分かり難い。「流れ」が分かりやすく説明できることが大事。

8 分科会の内容について

(1) テーマ設定はどうであったか

- ①難しいが、「地元で希望するテーマ」に配慮すべき。

(2) 分科会の説明

- ①出来るだけ多くの発言を引き出すことに意を配したが、上手くいかなかった。
- ②正副委員長の役割分担は、柔軟に変更しても良いのではないかな。
- ③テーマに関係する地域の状況を事前に把握して、発言を引き出す努力をした方が良い。
- ④最初の発言者で議論の方向が決まるため、発言者を含めた事前準備と調査が必要。
- ⑤話題や地域によって、発言する議員さんを上手く工夫したい。
- ⑥和やかな雰囲気になるよう工夫したい。

(3) 分科会の配布資料について

- ①危機管理室が作成したリーフレットは、分かりやすく良かった。

9 その他（気がついたこと等）

- ①「議会報告会」という会議名称で、イメージが固定されてしまう。会議名の検討が必要。